

1960年代後半から70年代初頭の高島亀太郎（上）

——家業面について——

川 東 埴 弘

目 次

はじめに

第1章 1966年

第2章 1967年

第3章 1968年

第4章 1969年

第5章 1970年

第6章 1971年

第7章 1972年

は じ め に

前稿¹⁾で1960年代前半(1961～65年)の亀太郎について見てみました。1960年(昭和35)に少人数で再出発した亀太郎の洋家具会社は、順調に滑り出し、61～64年は大過なく過ぎましたが、65年には全国的不況の発生と共に経営不振に陥っていました。

本稿では、60年代後半から70年代初頭の時期(1966年～72年)、晩年の亀太郎についてみます。世の経済は、「65年不況」を克服し、第2次高度経済成長の時代です(「いざなぎ景気」、65年10月～70年7月、57カ月)。しかし、この好景気は亀太郎の木工会社には及ばず、引き続き経営不振が続きます。そして、68年8月7日の真夜中に大きな地震が宇和島地方にあり、亀太郎の自

1) 拙稿「1960年代前半の高島亀太郎(上)(下)」(松山大学論集第13巻第6号、14巻第2号、2002年4月、6月)

宅は大きな被害を被りました。さらに、追い打ちをかけるように、同年8月28日、木工会社と貸家の一部が原因不明の火事に遭い、焼失してしまいました。その結果、亀太郎は会社の再建を諦め、ついに廃業に追い込まれます。

なお、政治面では、宇和島保守政界の重鎮（顧問）として、各種選挙や市長選挙等に引き続き関係していました。

以下、本稿では、晩年の亀太郎の家業面を中心に考察していきます。

第1章 1966年

1966年（昭和41）、亀太郎83歳の年です。世は「いざなぎ景気」の真っ最中ですが、家業の中心である木工会社（洋家具会社）は、前年に続き不況で、業績不振でした。その他、貸家、山林、不動産取引等を営んでいます。

（1）木工会社関係

木工会社は、1月4日から開始です。亀太郎は社員や孫の春雄と不景気対策等をよく協議しています。1月19日「三時から会社に出勤し、稲岡君、春雄と不況対策を協議した」、4月12日「午前稲岡君を招いて、会社今後の方針を話した」、4月26日「四時から稲岡君と春雄を招いて七時まで会社の社員、工員の給与増額につき協議をした」等々。

亀太郎は1958年5月以来宇和島家具同業組合の組合長を続けています。5月に組合総会があり、会社は不振ですが、又再任されています。5月26日「五時から河内屋へ行って家具組合の総会に出席し、決算報告の承認、役員の改選等議事を進め、役員は重任と決った」。

8月中旬、夏の会社のボーナスを決めています。12日「午前稲岡君と春雄を招いて協議し、会社の盆手当の支出額を定めた」。

11月15日には、恒例の会社の遠足をしています。本年は松山の奥道後です。「会社は稲岡君と春雄引率の下に全員奥道後へ慰安会を催した。朝早く出発して、午後四時松山発の急行で帰宇した」。

12月28日、会社の年末ボーナス支給を決め、また年末、亀太郎の家具販売店・みつわで大売り出しもしています。「午前稲岡君を招いて会社の年末手当額を極めた。十一時から外出して、市役所、渡辺代書等へ行き午後二時半帰宅。その間みつわへも寄って年末売出しの状況も見た」。

しかし、本年の木工会社の経営は不振でした。亀太郎は年末「会社は順次春雄に当らせているが、業績不振で改革の必要がある」と述べています。

（2）貸家関係

亀太郎は宇和島一の貸家地主です。1963年（昭和38）10月に貸家家賃の値上げを行いました。以降値上げ反対の借家人とのトラブルが起き、裁判沙汰にまでなりましたが、本年末、そのうちの若干名が値上げに応じ、一部解決しています。12月18日「借家住居で先年来供託を続けている組の一人土居清一君来訪。同君等の二、三名は自発的に値上げに応ずる旨の申出があった」、同月23日「八時借家の土居君が菊池君と同伴来訪、菊池分家賃の話を付けた」、24日「夜、借家の稲田君来訪、同人の家賃の件を解決した」等々。しかし、なお、トラブルは続きます。

（3）山林関係

亀太郎は宇和島でも有数の山林地主です。林業経営者の会合によく参加しています。1月27日に大阪で日本林業経営者協会の会合があり、出席しました。

「午後一時法円坂町農林会館で開催の日本林経協の懇談会に出席した。徳川会長、近藤助氏等東京より来会、関西方面の会員四十名参加して、五時まで林業の諸問題を検討した」。

4月13日には、高知へ行き、14日開催の山林経営者協会中四国部会の会合にも出席しています。「朝食後、ホテルの一室で開かれる山林経営者協会の会議に出席した。九時開議、東京の本部から徳川会長等来会。山林家約五十名で協議事項、報告事項、質疑等をそれぞれ議した末、講演に移り、正午を以って

閉会した」。

本年、亀太郎は山林と立木をそれぞれ1件売却しています。6月に高知県宿毛に所有の山林を須崎の人（田部氏）に売却です。6月23日「五時過井上君が高知の木材業尾崎仁右エ門君と同伴で来訪、宿毛の所有林売却の商談があり、世話を委した。夜再来。必用書類を渡し、両君は買人の所在地須崎市へ出発した」、同月24日「午前十時過須崎から井上君が電話し来り、同地田部氏へ山林売渡の契約成立、同君は夜十時半来宇来訪し、手付金を受取った」。

12月には、北宇和郡三間町音地（おんじ）の山林の立木の売却です。12月11日「午後二時ときわへ行って卯之町から来る木材商宇都宮秀雄君を待ち、同君及び同行の吉田町立花君、白井君と会して、音地山林の立木売買につき折衝した。四時商談整い、食事を共にして五時半散会、帰宅した」、同月12日「午前十時過宇都宮、立花、白井の昨日会った三君来訪。売約の音地立木につき契約をした。明年三月取引の筈である」。

(4) 不動産売買関係

本年は本業の木工会社の不振を補うかのように活発に不動産の売買を行っています。

亀太郎は昨年（1965年）8月に宇和島市柿原の土地600坪を購入しましたが、その一部を本年5月以降売却しています。5月8日「午前柿原の所有地へ行き、世話人の大宮隆好君及び一部土地の買入希望者伊藤さんの奥さんに会った」、同月19日「午前九時半から渡辺代書事務所へ行って、伊藤昇治君と出会い、柿原売渡地の代金授受と所有権移転登記の申請を済ませ取引を完了した」、11月24日「午前九時過四銀へ行き、帰後西野キクヲさん、西村君等来訪。柿原の土地一部を西野さんへ分譲の契約をする」、12月7日「午前渡辺代書へ行って、西野キクヲさんへ売った柿原所有地の一部三十七坪の代金授受をして、登記書類を渡した」等々。

他方、亀太郎はよく土地を購入しています。9月中旬には、宇和島市来区宮

ノ下の土地の購入です。9月11日「午前九時から外出して、天赦園へ寄った上で、来区方面の売地を視て廻り十一時過引返した」、同月15日「十一時春雄と共に来区宮ノ下買約の埋立地へ行って…市の係員と会し、境界を検分」、同月19日「正午から外出。渡辺代書へ行き、今回買入の宮ノ下宅地の売買登記法務局で受付に就き、売人代人松浦君との間で代金の授受を済ませた」等。

また、10月下旬には、森田医院の旧建物も購入しています。10月24日「午前四銀と岡藤岡三へ行き、松浦君の世話で森田医院の旧館建物今回新築取払につき、安値で当方へ買入れることにした」。

さらにまた、11月初めには来区寄松の土地240坪も購入しています。11月2日「八幡浜より来宇の松代真一君と出会い、来区寄松国道筋の同君所有の土地約二百四十坪を買入の登記申請を済ませて代金授受を終った」。

（5）納税関係

納税関係の記事は本年はあまりありません。何時もの如く、永田税理士をつうじて、所得税の確定申告をしています。3月15日「午后信金と永田税理士事務所へ行き、所得税確定申告書を税務署へ永田から提出させ、第三期納税を終えた」。

（6）その他—華宵の死—

亀太郎の弟華宵は、1964年（昭和39）8月、亀太郎の計らいで明石の愛老園に入居していましたが、65年7月からは東京の弁護士鹿野琢見氏（華宵のファン）の招きで、しばしば鹿野宅に滞在し、創作活動等をしていました。そして、東京では「華宵会」も結成され、本年66年1月初めには東京上野の松阪屋で華宵の回顧展が計画され、開催されました。

しかし、華宵は高齢のため、急激な環境変化について行けなかったのか、本年1月2日、心筋梗塞で倒れ、東大病院に急遽入院しました。亀太郎は、鹿野氏から連絡を受け、6日上京、翌7日東大病院に入院中の華宵を見舞っていま

す。「午前九時文京区弥生二丁目の弁護士鹿野琢見氏をその宅に訪い、華宵の病状を聴いて、同家滞在中の充と共に東大病院上田内科十九号室に華宵を見舞うた。入院以来酸素吸入を続けているが、本日あたりは小康で、予の来京を喜び、しばらく談話が出来たが、病種は心筋梗塞で静養を要し、一般には面会謝絶中である」。

松阪屋で開催中の華宵回顧展は好評でした。7日亀太郎は華宵を見舞った後、回顧展を見に行っています。「十一時から鹿野氏の車で同氏、充と共に上野松坂〔阪〕屋で開催中の華宵回顧展に行き、同氏の扣室で来観有志の訪問に接した。会場は新館七階の二室で華宵の旧作、新作、雑誌の往年の挿画など数百点の展観で、中にも順天堂所蔵の明治、大正、昭和初年に亘る婦人風俗を画いた極彩色屏風一双は出色の出来であった。吾宅から出した軽羅の美人画も注目をひいた一つである。一般入場者は華宵画を懐かしむ年輩の婦人を中心としてなかなかの人気を博し、一日中観客殺到の盛況が続き、松坂〔阪〕屋も驚いている程である。知名の士も多数来観、予も講談社監査役加藤氏等と場内で撮影した」。翌8日、9日も亀太郎は華宵回顧展に行き、入場者に挨拶・応対をしています。そして、1月10日、華宵を病院に見舞い、その夜帰途についています。

さて、その後の華宵ですが、4月30日に退院し、鹿野氏宅で療養していましたが、7月9日、再び倒れ、東大病院へ再入院しました。今度は脳血栓でした。病状は重く、右半身不随、言語障害ともなり、同月31日の夜、病状が更に悪化し、遂に逝去しました。78歳でした。その日の日記に「夜九時東京の鹿野琢見氏から電話があり、月初以来東大病院上田内科に入院中の弟華宵の病状悪化し、危篤状態との知らせにより直ぐ病院へ行くとのことで、予の二日上京の予定を繰り上げることを考える。折柄淡路の福良に出張中の華晃から電話があったので此旨を告げて直ぐ上京さすことにした。十時過ぎ鹿野氏より再び電話があって、華宵十時十分終に逝去、主治医田川先生の手を尽された甲斐もなく、病名は脳軟化症であるとのこと。享年七十八である」と記しています。

翌8月1日、亀太郎は上京しました。2日が葬儀です。「午後一時出棺式を行うた。森牧師の司式で柩の蓋を除いて最後の別れを告げ、各人白い夏菊の花を投入して棺を閉じた。華宵会の人々も多数参列、予が親戚では宇和島から態々上京の中村康男君の外、在京の純一君、田中信子さん等もあった。葬儀車をはじめ自動車数台に分乗して、荒川区町屋の博善社火葬場へ行き荼毘に付した。一同休憩室で待った後、遺骨を収めて華晃の長女が捧持し、又愛老園から出京の宇都宮専務理事の希望により、一部分骨を小壺に収めて同君が保持した。三時鹿野氏方へ帰り、予は更に鹿野、宇都宮の諸氏と共に明日の告別式場所たる麻布六本木の日本キリスト鳥居坂教会に会して下見分をし、同教会の浜崎次郎牧師の意向をも聴いた。挿画葬として日曜学校教室に鹿野氏収集の華宵絵画を展示する筈である」。

8月3日が告別式です。「モーニングに改めて、午後一時兩人で鳥居坂教会へ行った。会堂には華宵の写真を安置し、講談社、実業の日本社、その他予等よりの生花を供えて式場が整頓されていた。浜崎牧師の司式により一時半から告別式が執行され、讃美歌、履歴朗読等型の如く進行。明石より上京の矢田牧師、又森牧師の式辞、鹿野氏を始め華宵会関係者、講談社代表加藤氏や親族一同の供花もあって三時式を終わった。会葬者二百余名に対し、予は代表挨拶を述べて順次退出、別室の華宵絵画の展示を見られた方々に受付の係から華宵絵はがきを呈するなどのことあって、皆別れを惜まれ厳粛且有意義な告別式であった。四時過ぎ閉会して帰宿。重章は六時の新幹線で京都へ帰り、予は夜再び鹿野氏方へ行って、同氏及び華晃と協議し、諸方よりの到来物の返礼や遺物の処理などを一決した。十一時帰宿」。そして、翌8月4日、亀太郎は帰国しています。

1966年を回顧して、亀太郎は年末、次のように述べています。「この歳、大体別状なく過ぎた。予の健康は不相変元気で旅行など楽であるが、日常生活の間で多少の衰えを感じることもある。只氣力、識別力は減退していない。会社は順次春雄に当らせているが、業績不振で改革の必要がある。家族に異常な

く、妻も割合に元気であり、松山の倭文夫妻も同様であった。重章、澄江兩人は修一郎と共に今夏東商を退社して川之江へ移っている。昨夏中村のハルが亡くなり、本年春以来病臥の華宵が東京で七月末に逝去したので、八人同胞の中、長男の予ひとり尚寿を保っている訳である」。

第2章 1967年

1967年（昭和42）は、亀太郎84歳の年です。世の経済は「いざなぎ景気」が続きます。しかし、亀太郎の木工会社は依然不振が続きます。亀太郎は専ら不動産の売買に従事です。

(1) 木工会社関係

木工会社は、例年通り、1月4日始業です。家業不振の上、一月下旬、会社の中心社員である稲岡氏の辞任騒動が起きています。1月26日「会社の稲岡君、本日突然辞表提出につき、このことに就き、夜、春雄と談じ、一時の不便を忍んでも将来は春雄中心に経営を刷新してやっ行くことに意見の一致を見た」、同月27日「午後一時、稲岡君を招いて話をした結果、一兩日前の小事につき、同君に誤解の点のあったことが判り、翻意の上、従来通り勤務することに決定。辞表を撤回させた。…夜、春雄に稲岡君留任の事情を話す」。

4月25日に会社の従業員の賃上げについて協議しています。「四時から稲岡君、春雄を宅へ招いて会社従業員賃上げのことを協議する」。

6月7日に宇和島家具同業組合の総会がありました。亀太郎は高齢であり、また、家業不振も関係していると思われますが、長年務めていた組合長を辞任しました。「四時から川内屋で開かれる家具同業組合の総会に出席した。開会前の役員会で先日提出した予の組合長辞表は、自ら事情説明の上承認させ、引き続き総会に移って、後任者詮衡の結果、組合長に松浦寛一君、副組合長に下田喜八君を決定し一同の承認を見た。宴会もあって七時半帰宅」。

12月28日に、従業員の年末手当を決め、支給しています。「午前九時、稲

岡君と春雄を招いて会社の年末手当を決定し、直ちに支給した」。

（2）貸家関係

貸家の家賃供託問題はなお未解決で、借家人とのトラブルがなお続いています。9月2日「午前中、宇和島不動産の山内、西村両君来訪。貸家供託金組に対する家賃交渉を依頼した」。また、12月24日に税務署に提出する家賃調書の作成をしています。「税務署へ提出すべき家賃調べの調書を一両日から作成にかかり、本日午後二時頃までに大体了った」。

（3）山林関係

この年は、分収造林事業（山林の所有者と立木の所有者が異なり、両者で利益を折半する事業）を2ヵ所申請しています。一つは高知県幡多郡三原村の貝ヶ森においてです。2月2日「口屋内の林幸吉君来訪。貝ヶ森山林の分収造林申請書類提出方の打合をした」、同月9日「分収造林関係の書類に重章の調印をして郵便局より口屋内の林君に送った」。もう一つは、北宇和郡松野町奥野川です。11月18日「午前、松野森林組合の杉本専務来訪。奥野川分収造林計画地の実測図等持参し、申請手続を進めた」、12月4日「松野町森林組合の杉本君来訪。奥野川所有林の分収造林契約につき事務的経過の報告を聴き、県造林公社との契約書に調印した」。

（4）不動産売買関係

亀太郎は、この年、さらに不動産売買を活発に行い、拡大しています。

まず、不動産購入に関して。購入先を市外にまで広げます。4月下旬には松山に行き、古三津の土地購入を決めています。この時期、松山市から三津港に至る新産業道路建設があり、それにともなう地価値上がりを狙ってでしょうか、沿線の農地を購入しています。4月25日「午前六時三十八分の急行で出発、松山へ行き、九時商工会議所ビル三階の矢野不動産を訪うて矢野鹿雄君に

会い、同君、橋本君と共に先日視た新産業道路予定地の久万の台、古三津を再視察した。十一時、事務所へ帰って沿線農地の買取を委嘱し、午後十二時五分松山発の列車で帰宇。伊予銀へ行って矢野君に送金」。さらに、7月下旬にも松山に行き、古三津の農地を買い増しています。名義は孫の重章です。7月21日「午前九時二十分の列車で松山へ行く。十一時半着松。商工会議所ビルに矢野不動産を訪い、倭文も来て昼食後、共に矢野鹿雄君の自動車で古三津町の農地を視に行った。先般買入れた産業道路予定地沿線の地続きで買増すことに取極めて、午後三時半矢野を辞した」、同月26日「重章を午前九時二十分の急行で松山に立たせた。矢野不動産で第二次買約地の代金受渡と仮登記を済ませすため、午後三時頃手続完了…」等々。

さらに、12月には伊予郡松前町の土地400坪も購入しました。12月1日「午前九時二十分の急行で出発。松山へ行く。十一時半着松。直ぐ矢野不動産を訪い、先着の重章と倭文に会った上、午後一時から矢野社長、矢野常務と予等三人で共に松前町岡田小学校付近国道五十六号線沿いの土地、今回買約成立の四百坪の現地へ行き、次で伊予市の田中大友司法書士の事務所へ行って売人側二人とその関係者に会った。売買登記申請受付を法務局支局で済ませて、三時過代金支払を了り…。これも重章名義で購入です。

また、年末宇和島でも土地購入を決めています。宇和島市柿原にある夏柑園800坪です。12月27日「午前九時、兵頭宏君来訪。先般来同君の仲介で交渉中であつた大浦中根さん所有の夏柑園約八百坪農地転用手続を取って当方へ買入の件、やっと話纏り、実地測量の上、事務的の進行をすることに決定した」。

次に、土地売却に関して。亀太郎が宇和島市来区に所有している宅地を、3月18日、松山のトヨタに売却しています。「谷本、佐々木、兵頭の三君来訪。先日中交渉のあつた来区川内の宅地は、この人々の仲介で結局松山のトヨタパブリカKKへ売約することに決定した」、21日「午前、松山トヨタパブリカ愛媛株式会社の宇和島出張所牧瀬紘一君が兵頭、佐々木等の仲介業者と共に来訪。来区売約土地の契約書を交換し、手付金を受領した」等。

また、宇和島市柿原に所有している土地（1965年購入）を、本年頻繁に売却し、完売しています。4月13日「大栄商事の清家巖君と買人小西静子さん来訪。共に柿原の所有地へ行って一部分譲の場所を決定し、売約手付金を受取った」、7月3日「朝、音地和光君来訪。九時吉田から林賢市君来訪。共に渡辺代書へ行って同君へ分譲した柿原土地の代金授受と登記申請手続を済ませた」、8月3日「午後一時、仲介業宇和島不動産の山内、西村両君と買人坂崎君等と共に柿原所有地へ行って説明し、五十坪余を売約した」、8月5日「午後東洋林業へ行き、河野君の世話で柿原の土地八十坪を丸井製材の赤碕君に売渡の契約をした。これで柿原の所有地は全部分譲売却済である」等々。

さらにまた、伊吹町大池下の土地（1964年に購入）についても、7月以降頻繁に売却しています。7月18日「午前八時来訪の仲介業兵頭宏君外二人と共に大池下所有地へ行って分譲の場所を決めた。…来訪の兵頭君、金谷君代理の西川君と会い、大池下一ヶ所の売約をした」、9月3日「十時半から来訪の仲介業兵頭宏君、買人井上啓君と共に池の下所有地へ行って、分譲の地域を決定し、帰後契約をした」、9月9日「丸之内兵頭宏君方へ寄って大池下所有地の一部を大脇佐七君に分譲の契約をした」、9月27日「兵頭宏君の仲介で、買人西村喜平君と会い、三人で伊吹町大池下の土地へ行って実地を見せた上で共に宅へ帰り、その内約八十坪を売約した」、11月9日「午前、井上君等一、二訪人があり、午後一時に渡辺代書へ行って仲介兵頭宏君と出合い、同君関係の土地売約先井上啓、大脇佐七、西村喜平の三君もそれぞれ来り、会して代金の受渡をし、登記手続を済ませた」等々。

（5）納税関係

3月中旬、例年通り、永田税理士を通じて所得税の申告をしています。3月14日「午後二時永田事務所へ行き、二、三日懸案になっていた税務署との交渉を了って、昭和四十一年の所得税確定申告を提出し、三時までに第三期納税を伊予銀で完了した」。

(6) その他一故華宵のことなどー

4月下旬、講談社から華宵の画集が出版され、そのパーティが東京で開催されたので、上京、出席しています。4月28日「…神楽坂出版クラブに於ける高畠華宵名作画集出版記念会」に出席した。重章、華晃、中村純一君親戚側として参列。主催鹿野琢見君、講談社の加藤謙一顧問から夫れ々の立場で挨拶があり、次で諸名士の祝辞が数氏あって来集の華宵ファン百二十名近いグループの間で感激に満ちた和やかな空気が醸成されたのであった。酒間、スライド映写があつて、郷里宇和島が会衆に紹介され、予は別に華宵の兄として謝辞を述べ、感想を披瀝したので一同の諒解を深くしたようである。記念撮影をした後、九時半この有意義な会合を了った」。

また、7月30日には、東京の「華宵会」主催で華宵忌が東京で開催され、上京、出席しています。「午前八時から倭文と共に弥生二丁目に鹿野君宅を訪問し、倭文を母堂や奥さんに紹介して華宵の間を視せて貰った。十時までに辞して、三越へ行き、土産物数点を買ひ、正午帰宿。衣服を改めて、午後一時神田一ツ橋学士会館へ行って華宵会主催の華宵忌に出席した。来会者三十名で講談社顧問加藤謙一氏、その他知名の士も多く、スライドの映写、諸氏の談話もあつて四月の出版記念会以上の盛況であつた。予も挨拶を述べて五時半閉会」。

さらに、9月24日からは愛媛県主催の高畠華宵名作画展が郷土芸術館で開催され、10月4日に上松し、鑑賞に行っています。「午前七時五十二分の上り急行で妻、金井かよ、清家正子及び中村康男君と共に出発した。十時過着松。道後岩井屋ホテルへ行って、県の招待で今朝東京から来着の鹿野琢見氏とその同行渋谷三枝子、蓮沼龍子両女史に会い、十一時県の係員の案内で出迎の車に同乗。先づ県庁へ行って総務課長に会い、次で展覧会場の郷土芸術館へ行った。階下萬翠荘で昼食の上、階上の華宵画展を一同で観賞した。鹿野氏所蔵の軸物画帳の数十点及び雑誌の挿画等多数が陳列され、華やかな展覧であつた。吾方から出品の二点も傑作で入場者の注目を引いていたようである」。

その他のことですが、世は第2次高度成長期です。消費ブームの影響が亀太

郎家にも見られ、4月19日にカラーテレビを購入しています。「従来、宅に備付のテレビ古くなって故障が多いので今回、榎本君の紹介により愛菱系の三和電機から三菱カラーテレビ十九インチ大型を買入れた。色彩鮮明に出て音量等も好成績である」。また、6月3日には自動車を購入しています。「春雄のためにトヨタパプリカ支社からトヨタ中型乗用車壹台（新車グレー色、旧小型を下にやり現金払）を購入し、十一時頃会社の前へ納入に来たので、春雄に運転させて高光方面の国道を二十分間ほど試乗した。軽快なようである」。

第3章 1968年

1968年（昭和43）、亀太郎85歳の年です。8月7日大きな地震が宇和島を襲い、亀太郎の会社が大きな被害を受けています。さらに8月28日、木工会社と貸家の一部が火事に会い（原因不明）、焼失してしまい、亀太郎は木工会社の廃業を決断しました。打撃続きの不運な年でした。

（1）木工会社関係

宇和島木工会社は、例年通り1月4日から開始しています。

2月15日に、家具を松山に配送中、雪のため犬寄峠で事故にあっています。「会社のトラックで家具荷物を積んで今晚出発。松山へ向かった。春雄と運転手吉田の兩人は犬寄峠の手前で車を国道の路幅外に滑り込ませ、雪中自力で回復不能との報があり、松山から救援のトラックを派遣する手配をさせたが、夜に入って漸く他車の挽行で松山に到着。荷物には損傷なしとの電話があった。終日雨。山は雪で風強し」。

会社の経営は不振ですが、3月29日に会社の社員の給与引き上げを決めています。「午前稲岡君、春雄と会して会社、日、月給者の賃上げを決めた」。

5月1日、会社の取引先の金井氏が来訪、不渡手形を出し、その善後策に追われています。「金井完一君夫妻来訪。昨日期日の手形支払い不能の件で相談があり、その善後処置につき、吾が信金船大工町支店、伊予銀行との間を両三

回往復して当面の解決をした」。

そして、8月7日の午前1時、宇和島湾を震源地とするマグニチュード6.6の地震があり、亀太郎の家も被害を受けています（地震については後述）。

さらに、追い打ちをかけるように、8月28日に亀太郎の木工工場と貸家が火事に遭遇し（原因不明）、工場の殆ど全部と貸家十数戸を焼失してしまいました。大打撃です。その結果、亀太郎は工場の再建を断念し、1944年（昭和19）以来の木工会社の廃業を決断しました。なお、火事とその後始末のため、日記を書く暇が無く、8月28日から10月16日迄日記は空欄となっています。

（2）貸家関係

貸家の家賃をめぐるのは、トラブルが続く、値上げ反対の借家人が法務局に家賃を供託し続けていましたが、本年に入り、家賃供託をしている借家人と協議が続く、漸く解決しています。4月30日「午前、水野君と借家の富永さん来訪。昨夜組合の全員を会して協議の結果、大体纏まったが、尚、手続上検討を要するとのことであった」。5月1日「朝、水野君、富永君来訪。借家人組合中強硬の分子あって話逆戻りの態である」、同月2日「夜、水野君の迎えにより借家の富永君宅へ行き、集っている家賃供託の値上げ反対の組十七人に面会し、当方の考え方を説明して五月分より改正家賃とすることに一同承知をした。四年来の懸案これにて一応解決を見た次第である」、同月3日「午前水野（昇）君来訪。今回妥結十七人組の四月分家賃を持参した。五月分から額改定の筈である」、同月31日「夜、例月の通り貸家の家賃を集金させたが、今月分より供託組の分も先般の協定により直接入金した」等々。

しかし、8月28日の火事があり、工場と共に貸家10数軒が焼け、打撃を受け、それも一つの要因と思われますが、亀太郎は、本年の12月、又々、貸家の家賃引き上げを計画しました。12月6日「家賃値上げにつき、貸家の数十人へ葉書を出した。近日交渉に入る筈である」、同月16日「七時貸家浜浦の組

を招いて値上げの話をした」。

（3） 山林関係

山林関係では、前年に取り決めた三間村音地に所有の山林の分収造林事業の話が進んでいます。2月1日「二時過、松野森林組合の杉本専務、三間森林組合の佐々木専務来訪。県指導の分収造林計画につき話をした」、5月9日「十時六分のバスで三間町宮野下へ行って森林組合に佐々木悟専務理事を訪うた。…県造林公社から来着の技師八幡長三郎氏を迎えて正午過から、音地所有林の分収造林計画につき協議し、直ちに事務的に進行することに決した」、6月28日「午前九時過県事務所へ行って、平山林業課長に会い、又、造林公社として松山から出張の八幡君と会って、三間町音地の所有山林（セイ分）の分収造林契約書に調印した」、8月17日「午前九時二十分の宇和島線列車で三間宮野下の菊池代書へ行き、音地分収造林関係の登記申請を託して、十一時過バスで帰着した」等々。

また、亀太郎は、本年も林業経営者の会合にも出席しています。4月22日には東京での日本林業経営者協会の会合に参加しています。「十時十分東京到着、ホテル八重州龍名館に入った。直ぐタクシーで赤坂三会堂へ行き日本林業経営者協会の府県代表者会議に出席した。正午で了り、午後一時から更にその臨時代議員会にも出席、意見を述べた。予算決議、講演もあって、五時過閉会、龍名館に帰った」。また、8月3日には、松山市で林業経営者協会愛媛支部の会議があり、これにも出席です。「伊予鉄会館で開催の林経協愛媛支部の総会に出席した。川之江から重章も来会。会議は四時半まで続き、ソ連材輸入事情や東京から出張の平野林経協専務の森林法改正の経過等の話があった」。

（4） 不動産売買関係

昨年12月に購入を決めた宇和島市柿原の土地（大浦の中根氏所有の夏柑園800坪）について、本年1月13日に売買契約の調印をし、手付金を支払い、

そして、8月13日に土地代金の支払いと登記をしています。「大浦買約地の代金受渡をする筈なので、午前九時前から春雄の車で市民課、渡辺代書、愛媛相互四国銀行の間を両三度往復して、当方の準備を了り、一面売主の側も中根ヤスエさんと仲介兵頭君が渡辺代書事務所で待っていたが、正午、前所有権移転登記申請書類を法務局が受理したので、再び渡辺へ行って代金の支払をした」。

亀太郎は、伊吹町大池下に所有している土地を本年次々と売却しています。6月3日「伊吹町大池下土地へ行き、分譲分測量の図面に基き、買人側河野君と立会、境界を確認させた。直ちに分割の申告をする」、同月8日「伊吹町分譲地を山田キミへ売渡の契約をした」、8月4日「若藤源治君がその婿東岩市君と共に来訪。大池下の土地三十坪を分譲する取極をする」、同月9日「伊吹町大池下分譲宅地の買主東岩市君に会い、登記手続と代金の受領を終わった」、11月21日「十時大森嵩君来訪。昨日渡辺代書で用意の書類により同君へ分譲池の下土地の代金受渡を了った」等々。

(5) 納税関係

3月には例年通り、納税関係の資料を調べています。3月1日「一日税申告資料の調べものをした」、同月9日「今日も税申告資料の調べものに当たった」、同月11日「税申告に要する家賃関係の資料を整理して、午後三時過ぎまでに出来上がり、これで全部揃ったので、永田税理士事務所へ行き、永田君に会って説明を加えた」、同月15日「六時更に永田税理士へ行って所得税申告付属書類の訂正を要する分を持帰り、夜十時までかかって整理を了った。明朝十時までに今日日付で申告提出及び納税をする筈である」。

そして、3月16日に所得税の申告をしました。申告額は787万円、納税額は274万8,200円でした。「午前九時過ぎ伊予銀へ行って金を引き出した上で永田税理士事務所へ行き、昨日日付で七百八十七万余円の所得確定申告書と税金式百七拾四万八千式百円を十時までに税務署へ提出、納税した」。

しかし、11月に入り、税務調査がありました。11月1日「税務署の越智係

長来訪。昨年の所得につき調査を受けた。安達君も同行。四時過で一応本日の調べを打切ったが、尚、終わった訳ではない」、同月9日「午前十時、税務署の越智係長来訪。安達、山本両君も来会わせ、越智署員から主として四十二年の所得、銀行預金出入の關係に就き、先日引続いての調査があった。説明した結果、大体来宅しての調査はこれで了ったようである」等々。そして、翌年に修正申告となっています。

(6) その他一地震のことなどー

8月7日の午前1時過ぎ、宇和島湾を震源とした大きな地震があり、亀太郎の家も被害を受け、その記事が詳しいので、紹介しておきます。8月6日「夜半、熟睡を破って大きな震動を感じ、驚いて起きる間も水平動の地震やまず、従来経験したことのない強震と思うて、雨戸に手を掛けたとき、妻は早くも廊下の方から広庭へ飛び出し、予も続いて庭へ出たが、このとき大地は漸く揺れやんだ。それまでに軒の瓦が多量に落ちて、地上に碎け散り、家の棟瓦も長さ三メートル位壊れて凹み、二つの石灯籠が倒れ、門が傾いて土蔵の角にもたれかかり、僅かに倒壊を免れているのを月明かりで発見した。電灯は地震と共に消えたが、二十分程して点じた。向い家の春雄を呼び寄せ、福岡君を招いて会社の状態を調べさせたが、大なる損傷はないようである。警戒の中に一応家に入ったが、朝までに余震が二、三十分置きに十数回あった。ラヂオやテレビにより地震の起こったのは、午前一時十七分、震源地は宇和島湾で西方六十キロ、深さ約二十キロ、マグニチュード6.6、震度5と判った。ひどい筈である。朝までに手配をした大工土居又市君が職人四、五人を連れ、左官三浦実治君も手伝を連れて、八時までに来り、早速復旧工事に着手する。大工は先ず、縁側低下の修繕と倒れかかきの門の建直しを、左官は此際住宅屋根瓦全部の葺直しをさすこととし、左官の方は大仕事である。会社事務所の天井の復旧も夕方までに土居の手で了った。春雄、英夫の居る向い家二階建ての主家は、屋根漆喰が堅固で損害はなく、賃家の各棟も比較的大きな破損はないようである。附近で

は吾住居の損害が最も大きく、又、市中よりは泉町から北宇和島方面が災害が甚しいように見受けられる。朝来震災見舞に来訪の方が多く、信用金庫の山中理事長等、井上晶、井上敬雄、石崎要範、田中又雄の諸君など夕方まで相次ぎ、一面列車は不通だが電話や電報など、市外からの見舞いも多い。これらの応接と職人の指図で相当多忙なところへ昼間も余震が数回あり、震度3くらいのが二回、その他未明までの分を通じて二十一回に及んだが、大抵は震度1、2度ながら、頻繁なので不安が増すばかりである。夜は春雄をこちらへ泊らせ、予も妻も洋服のまま何時でも飛出せる体制で雨戸一枚開けたまゝ仮睡した」。

年末、亀太郎は不幸の多い本年を振り返り、次のように回顧しています。「この年は自分にとって災厄の多い年であった。宇和島湾地震による吾家の損害は相当大きく、住宅及び貸家の修繕に意外の経費を要した。次いで、宇和島木工会社に原因不明の火災があつて、工場の殆んど全部と附近貸家十数戸を焼失し、事業に大頓挫を来した。工場は再建せぬことに決定したが、焼跡の整理、道路線の改善等にも支出多く、一面税金の件、家賃値上交渉の行間等未解決のまま年を送るの已むなきに至っている。たゞ、懸案であつた英夫の結婚は良縁があつて年内挙式の運びとなり、新家庭を持っているのは幸である。大浦買入地の宅地造成は大体完了した。根本的にはこれらの諸問題を適当に処理し、今後の方針を誤りなく建て得るの思慮と実行性を保持している自分の健康を感謝するのみである」。

第4章 1969年

1969年（昭和44）、亀太郎86歳の年です。昨年火事で木工会社を廃業しましたが、本年に小規模ですが再建し、7月末から再開しています。健康面では、年末の12月右肩がヘルペスにかかり、入院しています。

(1) 木工会社関係

昨年8月に火事により工場が焼失し、木工会社の事業を廃業していました

が、本年5月末、極く小規模で会社再開を決めました。事情は不明ですが、孫の春雄が再開に意欲を示したためと思われます。5月28日「午前春雄の事業意欲を再確認させ、稲岡君をも招いて熟議の上、機械小規模設置の方向に進行することを内定した。職工二、三名の確保に当らす筈である」。

6月7日から、工場の修理・模様替え等を行います。「会社の焼残り建物旧今村式乾燥場の一棟に、少数の木工機械を据付けることを先日決定し、本日より大工土居の手で模様替工事に着手した。焼残りの木工機械数台は、松山の大森商店に見せた結果、修繕可能とのことで使用と決定した」。

そして、7月16日に工場の改修が終わり、22日に工場再開を労働基準局に届け、28日、会社が再開し、開始しました。「会社の事務所は昨年火災後向ひ本家の店に仮に置いて居たが、本日卓上電話位置替工事と同時に新工場の方に移転した」。

（2）貸家関係

昨年12月に、亀太郎は本年1月からの家賃値上げを提案しましたが、予想通り不調でした。1月14日「大森君来訪、家賃の話不調に了った」、同月20日「夜、賃家の前田等女四人と大森、徳田両人打連れて来訪、家賃の交渉不調の形となった」等々。

その後、一部の借家人は値上げに応じましたが（宇和津町）、なお、借家人の多くは値上げに反対でした。1月23日「午后久世君、水野君来訪。協議の上、家賃値上げ反対の大森へ両君から交渉を試みたが、夕方帰来。双方の主張に距離のあることが明瞭となった」、同月24日「久世、水野の両君、午前中家賃値上げ反対の大森に再び会い、その結果、夜八時から反対の組十数人と井上重吉方で会見折衝したが、終に不調に帰した。当方としても交渉打切後の対策を考える筈である」等々。

1月31日、改正家賃の集金に春雄等が回りましたが、半分位が値上げ反対でした。「月末家賃集金につき、夜、春雄の外、水野君を付けて廻らせたが、

先日来値上げ反対と判っていた二十二、三名の外、一、二これに加わるものが判明したが、その他は十二月協定の通り今月より改正家賃額で納入し、この分も二十数名でまずまずの成績である。不納供託の向へは今後、法的処置に出る予定である」。記事にあるように、亀太郎は不納者に対し、法的処置を考え、中々強硬です。

(3) 山林関係

特に目立った記事はなく、2月に高知県幡多郡西土佐村江川崎の山林を少々購入している程度です。

また、7月末から8月初めにかけて、日本林業経営者協会主催の隠岐林業視察団に加わって、隠岐に行っています。

(4) 不動産売買関係

亀太郎の家業の中心は不動産取引に移っています。

1月21日、亀太郎所有の伊吹町大池下の分譲地を一部売却しています。「午前若藤源治君来訪。大池下の土地へ共に出会って同人女婿へ一部分譲の話を決めた」、同月24日「午後一時大池下所有地へ渡辺測量班と共に行って若藤喜六君へ売約の分譲面積を測量させた」。

また、1月31日には、かねて埋め立て造成中であった宇和島市大浦の土地（中根さんから購入）の宅地造成が完成しています。

また、4月14日、松山に行き、1967年に購入した古三津の土地の地均しを決め、その後、工事に着工し、完成しています。5月10日「十一時半着松。矢野道顕君を訪うて矢野組の両名に会い、工事費の受渡をしたあと、三人と共に古三津の現場を視察した。工事略完成し、追加の基礎打に着手している」、6月4日「九時五分着松。予は直ぐ矢野道顕君方へ行って同君と話し、打合により来訪した矢野組主人との三人で古三津所有地の現場を視た。先日建築の基礎工事出来、農業委員会より宅地に変更の承認を得たので一応完了とし、矢野へ

返って約束の工事費を払った」等々。

（5）納税関係

3月上旬は68年分（昭和43）の税申告の準備で多忙でした。3月4日「帰後八時まで税申告資料の調べをした」、同月5日「宅用をする。一、二訪人に接した外は、税申告の資料調べに当り、土地の譲渡所得だけは全部書類作成を了って、午後四時過永田税理士へ渡したあと、家賃と経費の調べを継続する」、同月6日「午後家賃収入関係の調べを了り、資料を永田税理士へ渡した。市役所税務課、その他へも行く」、同月7日「予は税申告関係の調べ物を続け、…夜九時までに一応申告資料の全部を作り了った」、同月8日「午前税申告資料証憑書類一切を永田へ渡（す）」、同月11日「午前十時永田事務所に行って税申告の資料に就き検討し、期日までに提出方を委任した。次で山本税理士へ行き、消防署で火災証明書を得（る）」、同月14日「午後四時永田へ行って打合した結果、雑損の部で尚資料提供を要する件あり、帰って調査し、書類を作成して七時永田へ渡した」等々。

そして3月15日に確定申告書を提出しています。「午前八時過永田へ行き、又山本税理士をも訪うた。所得申告本日限りなので、領収書等必要書類を添えて詳細な計算書を午前中に永田から税務署へ提出し、一応の申告を了った。本年は昨秋の火災損害があるので査定は後日となるが、所得と相殺して納税額は僅少の見込である」。

しかし、その後、亀太郎と税務署の間でのトラブルが続きます。まず、過年度1967年分の所得税を巡って税務署のお尋ねがあり、修正申告をしています。6月26日「午後一時から更に安達君方へ行き、同君及び山本税理士と共に税務署の越智調査係長と会い、過年度申告分の税法の解釈上の相違点などに就て意見を聴いた」、同月27日「午前安達君方へ行き、同君及び山本君から交渉の経過を聴いた。永田へも寄って正午帰宅」、同月30日「四時安達君方へ行き、同君及び山本税理士に会い、協議の上、山本君を税務署へ行かせて交渉の結果、

数字の一致点に達したので、五時山本君の事務所で四十二年所得の修正申告書調印した。結局昨年十二月以来懸案であった過年度の所得税関係は解決を見た訳である。明日提出納税の手配をし、永田君へも経過を報告して、六時半帰った」等。

さらに1968年分の所得税の申告にもお尋ねがありました。7月7日「税務署越智係長から四十三年分所得申告につき電話照会があったので永田君に伝えて、交渉に行かせた」、同月12日「午前八時半永田税理士を訪うて、税務署との法の解釈の相違点を検討し、山本税理士へも寄って十時過帰った」等。なお、結果は不明です。

(6) その他のこと

本年の日記は11月13日までしか記述されておらず、以降不明です。亀太郎は、この後、台湾に旅行し、帰国後の12月に入って右肩にヘルペスを患い、宇和島市立病院に入院し、手術したため、記せなかったようです。

第5章 1970年

1970年（昭和45）、亀太郎87歳の年です。この年の日記は1月20日から始まっています。それは、本年1月に入って漸く退院し、この日から日記を記せるようになったものと思われます。ヘルペスの後、右肩は神経痛にかかっていますが、活動再開です。2月1日には亀太郎米寿の祝賀会が開催され、また、5月には大阪で開催の万国博覧会へ行くなど、前半はまだ元気です。しかし、その後、腸に異変を来し、7月には直腸癌で3ヵ月程市立病院に入院し、体調も段々弱ってきています。

(1) 木工会社関係

昨年、8月、小規模で木工会社を再建し、孫の春雄が中心となり経営しています。しかし、経営は依然不振です。年末12月28日の日記に「稲岡君、春雄

と会社の諸事項を議し、欠陥の対策につき意見を交換した」などとあります。だが、経営は続け、職員にボーナスも支給しています。12月27日「午后春雄を招いて会社の年末賞与額を定め、その他の件をも打合した」。

（2）貸家関係

昨年1月からの家賃の値上げに際し、過半の借家人が値上げに反対で、トラブルが続いていましたが、亀太郎は不納者への法的措置を取り、強硬な態度で対応していました。4月11日「午前十時予て渡辺代書の手で申請していた貸家、横山正治の立退跡の仮処分許可となり、大洲より執行官当地裁判所へ到着。十一時過來訪の上、横山空宅へ立入転貸禁止の標示をした」、同月22日「午後渡辺代書へ行って坂下津へ移転の横山正治へ対し、吾方貸家立退明渡請求の内容証明郵便を出した」、5月31日「貸家の横山正治方明渡しを受けるにつき、春雄の車で荷物を坂下津へ運び、来合わせた大工土居君の手伝を得て、漸く終了した」等々。

（3）山林関係

特に、記事はありませんが、6月5日、愛媛県林業経営者の総会に出席しています。「四時天赦園へ行って、愛媛県林業経営者協会の総会に出席した。一時からの山林視察には井上君を代理させたが、総会は井部組合長、久保理事、日本林経協の平野専務理事、住友林業の伊東支店長等二十五名で林業関係の談話があった」。

（4）不動産売買関係

亀太郎の家業の中心は不動産取引です。

亀太郎は、松山市の古三津の土地を造成中ですが、追加工事をしています。4月8日「午前九時二十分の急行で松山へ出張、十一時二十四分着松。打合により矢野道顕君の車で駅から直ぐに古三津の造成団地へ行き、矢野組の社長と

も会して共に実施を再検討したが、県道の利用の見通し付いたにより、当方追加工事設計をも再考することとした。午後一時市中へ帰り、二番町美かどで共に昼食の上、近日再見積を出さずこととして二時頃別れた」、同月24日「午前九時二十分の急行列車で上松、十一時二十四分松山駅着。前日の打合により重章も朝、川之江を立って十一時四分着で来て居り、矢野組の社長と技術者小田君もきてその車で古三津の所有地へ行った。矢野道顕君も現場で出会い、共に土地の状況を再検討したが、今回県から道路ののり面（直線で七メートル）使用の許可正式に達したので、その分埋立利用の必要があり、この際奥行何メートルまでに止めるかに就て決定する訳である。重章に三津築港までの道路開通後の現状を見せてから市中に帰り、一旦予と重章だけで食事の上、倭文方に寄って協議の結果、午後三時再び矢野組と道顕君方で会見交渉した。結局土地奥行の殆ど全部を道路と同じ高さにまで埋上げることゝして、工事契約を取極め金額を決定した」、5月28日「午前九時二十分の急行で出発松山へ行き、十一時二十四分着。駅で出迎の矢野組社長と小田技術員の兩人と同乗、古三津埋立工事の現場を視た。正午了り、市中食事の上、午後一時矢野道顕君方一同で行き、打合の結果、内渡金を渡した」等々。

また、亀太郎所有の伊吹町大池下の造成地を引き続き販売しています。6月5日「午後一時汐崎代書へ行き、宮崎秀夫君と出會って大池下土地の内六十坪同君へ売渡の取引をした」、同月9日「午前宮崎君と共に大浦へ行って、所有地を見せた。…来訪の西河吉秋君とその女婿に大池下の土地を見せた」等。

さらにまた、昨年造成した宇和島市大浦の土地に建売住宅を建築しています。12月23日「午前井上晶君来訪。同君の車で大浦へ行き、建築中の家屋を視せた。帰後宮崎秀夫君来訪。請負額の値増に就て話を決めた。…午後三時市役所へ行って、建築課で柿原の道路指定の許可書を受取り…」。

また、年末、宇和島市泉町の所有地200坪を売却しています。12月26日「午前九時半、市役所へ行って山本市長に会い、泉町二丁目分譲地に伴う路幅一メートル分の市へ寄付につき、申出で承諾を得た」、同月31日の年末回顧「泉町

一丁目の焼跡二百坪を分譲したので稍一息である」等。

（5）納税関係

3月、確定申告をし、納税しています。3月9日「朝から調べものをして、午后までに税申告関係の資料を査定整頓し、四時永田税理士事務所へ渡した。明日以後、数日期間に税務署と交渉して、確定申告をする筈である」、同月16日「午前九時過、信金と永田税理士へ行き個人所得税の確定申告を税務署へ提出せしめ、同時に第三期納税を済ませた」等。

（6）病気、入院のこと

昨年12月、ヘルペスで入院し、本年1月退院しましたが、その後遺症で、右肩が神経痛となり、通院していました。4月、神経痛は全快しましたが、大腸に異変が起きています。4月7日「午前精神病院内科へ行った。肩神経痛は殆ど全癒、腸の便通稍頻繁につき、服薬をしばらく続けることとした」。

そして、6月16日直腸の検査をしました。潰瘍が発見されました。「昨年来便意頻繁で、本年に入り相当長く精神病院近藤内科へ通うたが、根治せず、同氏の添書で市立病院外科の藤原医師に紹介され、直腸鏡による検査を受けることになっていたが、本日決行。午前十時過妻と共に市立病院へ受診に行った。藤原氏の院内回診の了るを待って肛門の検査を受けた。指の挿入には三センチばかりの所で痛さがあり、次で直腸鏡の挿入には却て痛みを感じぬ程度で了った。尚、血液を採り、レントゲン放射を腰部正面と側面に施した。結果は病院より直接近藤氏へ連絡するとのことで午後一時に帰宅した。その後妻が単独で再び病院へ行って藤原氏に聴いた所によると、直腸内に可なり大きな潰瘍が出来ているとのことであった」。癌でした。

そこで、入院し、手術をうけることになりました。7月2日から宇和島市立病院に3ヵ月間ほど入院しました。日記は、7月2日から12月20日まで書かれておらず、入院生活の状況は不明ですが、一応手術は成功し、無事退院しま

した。

年末、亀太郎は健康や家族のことを振り返り次のように回顧しています。「この昭和四十五年は特に思出の多い年であった。光栄の年であり、試練の年である。前年十一月台湾に旅行し、帰後十二月に入って病んだ右肩のヘルペス全治せざる中に、本年二月一日市有志による予の米寿祝賀会が錦大ホールに於て盛大に開かれ、松山からの来賓もあって光栄に浴した。五月には万国博に行く等、健康上大いなる支障はなかったが、七月、直腸潰瘍による腹部切開手術を要するに至り、市立病院に三ヶ月、曾てなき大患であった。幸にして順調に快癒し、今尚階段の歩行に困難を感じると人工肛門の処理に日々の手数を要するのみとなったのは高齢者として稀に見る体力の強健であって、誠に神寵と云うの外はない。これを衷心より感謝し却て百歳の青年を以て任ずるの気魄持つに至っている。家庭の事情根本に変化はないが、松山の倭文を病後も引続き吾宅に留めているのが常態となったため、後日に備えて邸内に一家屋を新築している。妻も大体健康、重章夫妻も川之江にあって三児と共に元気である。英夫方は一児を育て、円満に、春雄は木工会社依然不振ながら家庭別条なく、美輪子の出産が近づいている。仙台の重泰だけがまだ未婚である。経済面は大池下の土地全部売れ、大浦の造成宅地に試に建売住宅三戸を建築中である。冬に入り、泉町一丁目の焼跡二百坪を分譲したので稍一息である。山林は変わりなく持続。茲に無事を祈って年を送る。十一月には山本市長等の発企で病氣全快祝の大碁会を天赦園で催されたり、長寿の因みで諸方から揮毫を依頼されたり、公私いろいろと多忙であった」。

第6章 1971年

1971年（昭和46）、亀太郎88歳の年です。経済面では激動の年です。8月15日、アメリカのニクソン大統領は、アメリカ経済の経常収支の大幅赤字を背景に、いわゆるニクソン声明を発表し、金・ドル交換停止がなされます。以降、国際通貨体制は固定相場制から変動相場制に移行します。その記事も日記

にみられます。8月27日「夜八時、水田大蔵大臣がドル下落の現状に鑑み、対外為替市場は変動相場制を採用する旨発表。これにより実質的に円の切上げとなった」。

しばらく、変動相場制が続きましたが、年末、ワシントンのスミソニアンで先進諸国の会合がもたれ、再び固定相場制に復帰しました。その記事も日記に書かれています。12月19日「朝のニュースでワシントンの十ヶ国蔵相会議で各国通貨比率の調整合意に達し、金は一オンス三十五ドルから三十六ドルに引上げ（ドル七・八九%引下げ）、円は一六・八八%切上げて、従来のドル対三百六十円が三百〇八円に改定の旨発表された。テレビで政財両界の意見や説明が報ぜられた」。

このように、世界経済は変動期に入ります。以下、本年の家業について見てみます。

(1) 木工会社関係

木工会社の経営の中心は孫の春雄に移っています。しかし、実権はなお亀太郎です。1月中旬、春雄は工員とトラブルを起こし、亀太郎にきつく叱られています。1月18日「稲岡君と春雄を招いて工員島津の退社を見るに至った経緯を聞き正し、両人の経営者としての無策を責めた」。

しかし、引き続き春雄を中心に会社を経営していくことを確認しています。1月20日「午前、春雄を招いて会社経理上の要点を説き、今後春雄中心で行くことを再確認させて工員賃上げを決定した」。

2月下旬、会社の中心的職員であった稲岡が退職の意向を表明し、退職しました。2月25日「稲岡君と話す。本月を以て退社の筈につき挨拶をし、尚、退社後も外交事務を嘱託する意向を告げた」。

11月6日に、恒例の会社の慰安旅行をしています。「会社は春雄が首班として社員慰安旅行を琴平・高松に催し、朝六時発、夜十一時半帰宇した」。

11月下旬に、宇和島信用金庫から、亀太郎の木工会社の販売店みつわの土

地買い入れ希望がありました。「信金の山中理事長来訪。みつわの土地売渡について先方希望の旨申出があり、建物の件は追て交渉することとして、取敢えず財務部へ稟議の運びを諾した」。

12月中旬、会社の工員のボーナスを出しています。12月18日「午前春雄と話し工員に交渉させた上で会社のボーナス額を決め本日支給した。一ヶ月弱分である」。

以上、本年も会社経営は不振ながらも、引き続き続いています。

(2) 貸家関係

一昨年、昨年に引き続き、家賃値上げ反対の借家人が家賃供託を続けています。1月5日「午前、清家巖君来訪。同君に嘱して一昨年一月以来、家賃供託を続けている現在十一名の反対組に対し、値上げ交渉に当らしめることとした。打合の上、十日頃より話開始の筈」等。

しかし、話合いは進まず、4月23日に、亀太郎は訴訟をしています。「午前十一時兵頭弁護士を訪い、前田和美に対する家賃値上げの訴訟を委任した」。亀太郎は強硬です。

(3) 山林関係

山林関係の記事は殆どなく、以前取り決めた北宇和郡奥野川の山林での分収林事業の記事がある程度です。1月7日「県造林公社の鶴岡君から電話があり、川奥山林分収造林契約の促進方につき話をした。直ちに事務的に運ぶ筈」。

(4) 不動産関係

かねてより、宅地造成し、住宅を建築していた大浦の建売住宅が完成しています。1月14日「宮崎秀夫君と共に大浦へ行き倭文も同伴。今回建築落成の建売住宅参戸を視察、検収した」。そして、7月16日に1戸販売です。「午前大浦建売住宅売約分の受渡につき、十時過から外出。先づ信金へ行って、買人

側高内一幸君の親族三人と仲介業阪本、松田両君に会い、次で信金より買人が融資を受ける件で山中理事長の承知を得てその手続に掛った」。

（5）納税関係

税務署から1970年に売却した土地価格についてのお尋ねがあり、回答しています。1月19日「税務署から照会に係る四十五年中売却土地数件の価格等の調査回答（大要）を午後永田税理士を通じて提出した」。

2月下旬以降、1970年分の所得税の申告の準備をしています。2月24日「夜七時から十時まで税申告資料を調査した」、同月25日「午後所得税申告の調べをし、四時譲渡土地関係の資料だけを纏め上げて、永田税理士事務所へ持参。永田君に説明をした」、3月2日「午後税申告の家賃其他資料を整えて、三時永田税理士事務所へ渡した。近く申告書作成の筈」等。

そして、3月10日に確定申告しています。納税額102万円です。「永田税理士事務所へ行って、個人所得確定申告書（税額百〇二万円）を税務署へ提出させ、納税をした」。

その後、またまた、税務署より、お尋ねがありました。9月16日「午後税務署からの問合により資料を調べて永田税理士へ提出した」、同月29日「午前十時、永田税理士税務署員と共に伊吹町池の下及び柿原の売却済の土地へ行き現況を見せた」等々。

年末、亀太郎は家業や家族、自分の健康等を振り返り、次のように回顧しています。「この年わが国の経済界はニクソンショック、ドル安円切上げ等のことあって大なる変動に面したが、当地としては著しき影響なく、山林価は低調が続いている。吾家としては稲岡君退社後の木工会社を順次春雄の主宰に移す方針で経理に当らせており、不振ながら大なる蹉躓はなく、松山から呼戻した重雄夫妻に協力させている。英夫、春雄の家庭共に円満に一児を育て、おり、川之江住居の重章方も三児健全に生長を続け、事業上も重要性を加えている様である。末孫重泰の結婚が当面の課題である。予の健康は病後の状態より順調

の回復を続け、歩行にも大なる困難はなくなったが、腹部の処理は妻を煩わしている。精神面に衰えなく感謝の日常を守っている」。

第7章 1972年

1972年（昭和47）、亀太郎89歳の年です。この年6月、遂に赤字の木工会社を廃業し、宇和島の下田家具に譲っています。健康面では、3月頃からだんだん体に変調がみられるようになっていきます。そして、直腸癌が再発し、7月に市立病院に再入院し、2ヵ月にわたる入院生活ののち、9月23日遂に亡くなりました。

(1) 木工会社関係

宇和島木工会社の経営は赤字で、経営難が続いています。2月29日「午前春雄と会社の現状につき話をし、局面打開の要あるを説いた」、4月21日「春雄会社の決算書を持参、検討すると四十六年度も依然赤字を繰返しており、これでは根本的に方針変更の要であることを決意する。折柄来訪の亀岡君からも献言があり、同意見につき今後のことを協議した」。

4月23日、亀太郎は春雄を責め、会社の縮小を決断しています。「夜、妻と倭文に対し、会社の業績不良を告げ、春雄の怠慢是正の急務なることを認識させた。縮少の外はない」。

5月8日に、遂に亀太郎は、木工工場を下田家具に賃貸する契約を内定しました。「午後一時半下田喜八君が亀岡君と共に来訪。宇和島木工の工場を六月より同君の下田家具工業に賃貸すること、し、実地立会の上用地の範囲を定め契約を内定した。…夜、春雄、倭文を呼んで下田との取極の経緯を説明し、同意を得た」。

そして、5月20日に正式調印しています。「午前下田喜八君、亀岡君と同道で来訪。午後二時下田君再び来訪。先日約した会社の契約書を作成し、調印交換をした。…この間、岩城君、福島君来訪。夜、春雄と工員の件等で話をした」。

5月22日、亀太郎は工員に説明・了解を求めています。「十時、工場へ行き工員へ対し、今回下田家具へ作業場賃貸のことを告げて過渡期の処理に就ても意見を交換した」。

6月8日、工場を下田家具に引き渡しています。「午前妻と重雄夫婦、春雄を集めて工場譲渡後のみつわ運営等につき協議し、又工員の退職手当を定めた。…工場は受注品の製作を本日大体了り、下田の主人と職長等二、三人の来社を受けて春雄から引渡をした。下田としては来週から操業の由である。夜も妻や倭文とみつわの改造などを話した」。

6月9日に会社の残務処理をしています。「会社は本日工場の残務を片付け、事務机は当座本家表土間へ移して外部との交渉に当ることゝし、工員へは午后給料と退職手当を支払った。尚、予より閉鎖に就ての挨拶をし、跡、春雄方で小宴を催した。町村の学校、役場等永年の得意先へ対し、工場は下田家具が継承し、会社としては今後売店みつわに傾注して営業する旨の通知と挨拶状を出した」。

春雄は今後、販売店みつわに専念の方針です。6月10日「夜、重雄、倭文より申出があり、春雄の今後の行き方につき意見を交換した」、同月13日「午前、春雄と談じ、みつわに専念することを確定。大に生活様式と事業態度を改善する筈である」、同月14日「午後みつわへ行って春雄と亀岡君に会し、店舗の修繕改造について研究をした」。

（2）貸家・山林関係

貸家関係の記事はありません。また、山林関係では6月24日「午後井上晶君来訪。槇川の山林を買うことに極めた」程度です。

（3）不動産関係

工場の跡地を駐車場にしています。2月19日「工場跡の空地三年余遊んで居るのを四百坪程度自動車の有料置場にすることを計画し、四時鹿田の吉良君

を招いて実地を見せた。地均しとコンクリート舗装、金網垣の見積を出さすことゝした」。

4月7日に、宇和島市大浦の建売住宅1戸販売です。「追手清水君の親戚、石崎正信君へ大浦建売住宅の壱戸を売渡の契約綴り、手付金を受領した」、同月20日「予は先日買約した大浦建売住宅の代を午前中、清水君から受取り、午後信金、その他、一、二へ行った」。

5月20日にも1戸販売です。「大浦建売住宅の残り壱戸も下田哲君へ買約した」。

(4) 納税関係

2月5日、家賃調書を税務署に提出しています。「午前、税務署へ提出すべき家賃調書を作成し、永田税理士へ持参して署へ出させた」。

3月初旬以降、所得税申告資料の準備をしています。3月8日「午前所得税確定申告の資料を整えて、永田税理士事務局へ行き、永田君に説明して申告書作成を託した」、同月10日「午前税申告に要する追加資料を整えて、永田税理士を訪い、十一時に帰った」。そして、同月11日に申告しています。「午前十時過永田税理士へ行って、書類出来の確定申告書に調印提出させ、納税の手続をも済ませた」。

(5) 病気、そして死亡

本年89歳、元気であった亀太郎の体に3月下旬頃からやや変調の兆候が見られました。排便がおかしくなっています。3月27日「市立病院へ行って藤原氏の診察を受け、近頃排便に液状のことが多いので処方箋を変えて貰った」。しかし、その後は回復しているようです。

5月に入り、またところどころ変調がみられました。5月6日「右の肩がこるので丸島医院で注射を受けた」、同月12日「咽喉が痛いので午後井上耳鼻科へ行き、政君の診察を受けた」、同月26日「午前丸島へ行って肩が凝るので注

射を受けた」等々。しかし、まだまだ元気です。

体が大分弱ってきたのは、6月中旬以降です。便がまたおかしくなりました。6月12日「近頃便が液状のことも多く調子が悪い」。同月18日、心配した孫の重章さんが来字し、そこで、亀太郎は体調不良を訴えています。「夜、重章川之江より来着。春雄の件や予の最近身体不調のことなどで遅くまで話をした」。以降、亀太郎の体の疲労感が続きます。6月20日「予は疲労感直らず、多く臥褥した」、同月22日「一日臥褥した。からだの調子が悪いためである」、同月23日「十一時妻と共に病院へ行って永島氏の診察を受けた。臀部肛門を検し採血あり、やや貧血につき従来増血剤は連用の要ありとのことであった。帰宅後は一、二手紙を書いた外、概ね臥褥する」。直腸癌の再発のようです。なお、この時、亀太郎は入院を勧められていましたが、断っていたとのこと。

7月に入ってやや小康です。7月1日「散髪、一浴、少し調子よし。…夕方からは臥褥」、2日「午前一、二事務をみた外、概ね臥褥」、3日「一、二訪人に接した。臥褥中は読書もする」、7日「午前十時、妻と共に病院へ行き、長島氏の診察を受けた小康である」、8日「午前宅用。臥褥。午後原稿を書いた」、9日「午前、理髪業組合長の三上君が松影君同道で来訪。明治時代の宇和島理髪界の事情と変遷につき記憶を話した。午後、福島君来訪。五時過ぎまで碁を囲んだ」、10日「午前宅用をし、原稿を書いた。午後岡三の松本支店長来訪。次で来訪の曾根和夫君には津島町長宛進言書に署名して与えた。夜また原稿を書く」、11日「午前、岡本弓三君来訪。原稿を書き纏めて午後渋柿社へ送った」、12日「当面の事務を処理し、書類を少々片付けた以外は概ね臥褥、読書と句作に終始した」、13日「昨日と大差ない生活。水野素直君等、一、二訪人があった」、14日「午前一、二訪人があり、十時妻と共に病院へ行き長島氏の診察を受けた。午後一時から浦瀬君来訪。四時まで碁を打った。息子さんに草刈機で庭の芝生を刈って貰い奇麗になった」等々。

亀太郎最後の日記は7月15日で、それも途中で終わっています。それは「午

前井上君来訪。午後手紙を数通書く等、当面の用事をした。午後石崎君来訪。碁を打った。倭文正午の列車で松山へ出張し、午後四時過航空便で来着の重泰と会見。予ての打合により同地郷田…」です。恐らく、日記を書いている最中に急に体調が悪化したものと思われます。

そこで、亀太郎はついに再入院することにしました。そして、二度と自宅に帰ってくることはないだろうと自覚し、家族に家の回り、庭等を見せてもらい、宇和島市立病院に入院しました。やはり直腸癌でした。そして、2ヵ月余りの闘病生活の上、9月23日逝去しました。89歳でした。日清戦後の明治30年(1897)の14歳から働きだし、大正、昭和、戦前、戦後と働きつづけ、長い長い波瀾万丈の人生に遂に終止符を打ったのでした。